

(3)-2 関西国際空港の存在・運用に係る環境監視計画の変遷

監視項目	測定・調査項目	調査範囲	調査点	2期供用開始後(H19.8)～		現行(H28.3末時点)
				調査頻度	実施期間	
騒音	航空機騒音	大阪湾沿岸地域及び飛行経路周辺地域	11地点(常時)・10地点(定点)	常時観測	将来にわたり実施	将来にわたり実施
	飛行経路・高度		年1回程度(当面年1～4回)	運用開始3年後まで	新飛行経路導入(H10年)以前に設けられた調査地点はH23から休止し、航空機離着陸回数が年間18万回程度に達した段階で再開協議する。新飛行経路導入後に設けられた調査地点は、関西国際空港の飛行経路問題に係る協議会等での協議結果に基づいて調査の要・不要を決定する。	
低周波音	航空機の低周波音	大阪湾沿岸地域	数地点	常時観測		
大気質象	窒素酸化物(二酸化窒素・一酸化窒素)、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、炭化水素(メタン・非メタン)、風向・風速、二酸化硫黄	空港島対岸部	1地点	常時測定	運用最大時の3年後まで	運用最大時の3年後まで
			2地点			
水質	透明度、水温、塩分、pH、DO、COD、T-N、T-P、クロロフィルa、SS	空港島周辺海域	4点	年4回(四季)		平成28年7月まで(H25.8変更)
		内部水面海域	3点		北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開	
底質	泥温、強熱減量、粒度組成、pH、COD、硫化物、T-N、T-P	空港島周辺海域	4点	年2回(夏季、冬季)		
		内部水面海域	3点	年4回(四季)	平成28年7月まで(H25.8変更)	
海域生物	植物プランクトン	内部水面海域	2点			北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
	動物プランクトン	空港島周辺海域	4点	年4回(四季)		
陸生動物(鳥類)	底生生物	内部水面海域	3点			平成28年7月まで(H25.8変更)
	鳥類の飛来・生息	空港島周辺海域	4点	年3回(春季、夏季、秋季)		北側連絡誘導路等の施設整備の実施が確定後、着工前に速やかに内部水面(N1、N2)において年4回(四季)で再開
陸生動物(鳥類)	鳥類の飛来・生息	1期及び2期空港島内	定及び調査ライン	3年ごとに月1回		航空機年間離着陸回数が大幅に増加した段階(20万回程度など)で再開
	タカ類の渡り	空港島周辺海域	調査ライン	3年ごとに年4回	運用最大時の3年後まで	航空機年間離着陸回数が大幅に増加(20万回程度など)、または、2期事業の工事の進行により鳥類の生息環境に一定の変化が認められる段階で再開
	タカ類の渡り	タカ類の渡りのルート	1点	3年ごとに年1回		航空機年間離着陸回数が大幅に増加(20万回程度など)、または、タカの渡りに関する諸情報等により、調査が必要と判断された段階で再開